広報
向日市
No 104　昭和48年11月
■発行　京都府向日市役所
■編集　秘書人事課広報係
■電話　075(931)1111

おもな記事
○市内河川をチェック＝川美パトロール＝
○昭和四十七年度決算を認定＝あらまし＝
○ハンドルをもつ手も真剣＝自転車の交通安全教室＝
○財政状況の公表＝昭和四十八年度上半期＝
○補正予算を可決＝第三回定例市議会＝
○十一月のお知らせ

昭和47年度決算を認定

向日市民会館を建設

歳出五パーセントの減（前年度と比較）

昭和四十七年度決算が、第三回定例市議会（九月）で認定されました。昭和四十七年度は、日常生活に結びついた諸事業を推し進めました。

（文中単位万円）

昭和四十七年度は、地方財政のひっ迫化が叫ばれている中でスタートしました急速に進む都市化から、過密問題を抱え、生活環境施設の整備、公害、交通対策教育、福祉の面などの施策を推し進めました。

また、十月には、町制に終止符をうつ、市制移行をするなど、大きな転機に立った年度でした。

決算規模をみてみますと一般会計では、歳入十八億千六百二十二万円、前年度と比べて一億八百六十四万円、五・六パーセントの減歳出十七億七千八十六万円前年度と比べて九千三百四十九万円、五・〇パーセントの減を示し、実質収支では、四千五百三十六万円の黒字となりました。しかし単年度収支では、千七十九万円の赤字でした。

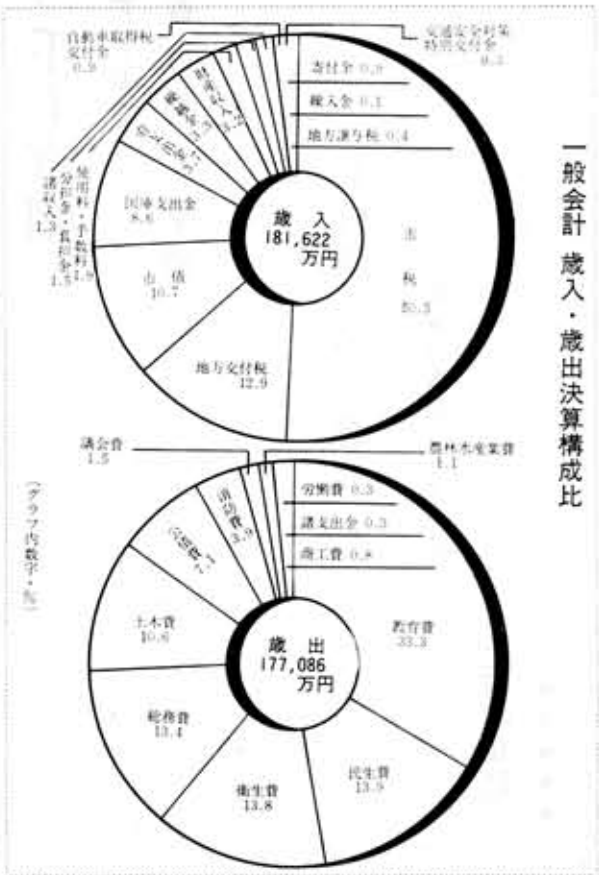
前年度と比べて、歳入歳出とも減となったのは、前年度において、第四向陽小学校の用地取得があったためです。

歳出の決算構成比では、教育費が三三・三パーセントとトップを占め、民生費一三・九パーセント、衛生費一三・八パーセント、総務費一三・四パーセント、土木費一〇・六パーセントの順となりました。また性質別では、投資的経費三一・五パーセント、人件費など義務的経費四〇・八パーセント、物件費などその他の経費二七・七パーセントとなりました。

一方、歳入では、市税が五〇・三パーセントを占め地方交付税一二・九パーセント、市債一〇・七パーセント、国庫支出金八・六パーセント、府支出金三・七パーセント、繰越金三・三パーセントの割合を示しました。

昭和四十七年度でのおもな事業は、向日市民会館建設（二億二千七百八万円）第四向陽小学校建設（八千九百八十二万円）、第三向陽小学校増築・プール建設（三千四百九十三万円）、市道整備（三千八百六十万円）、寺戸川都市下水路改修（三千四百二十六万円）などです。決算額はつぎのとおり。

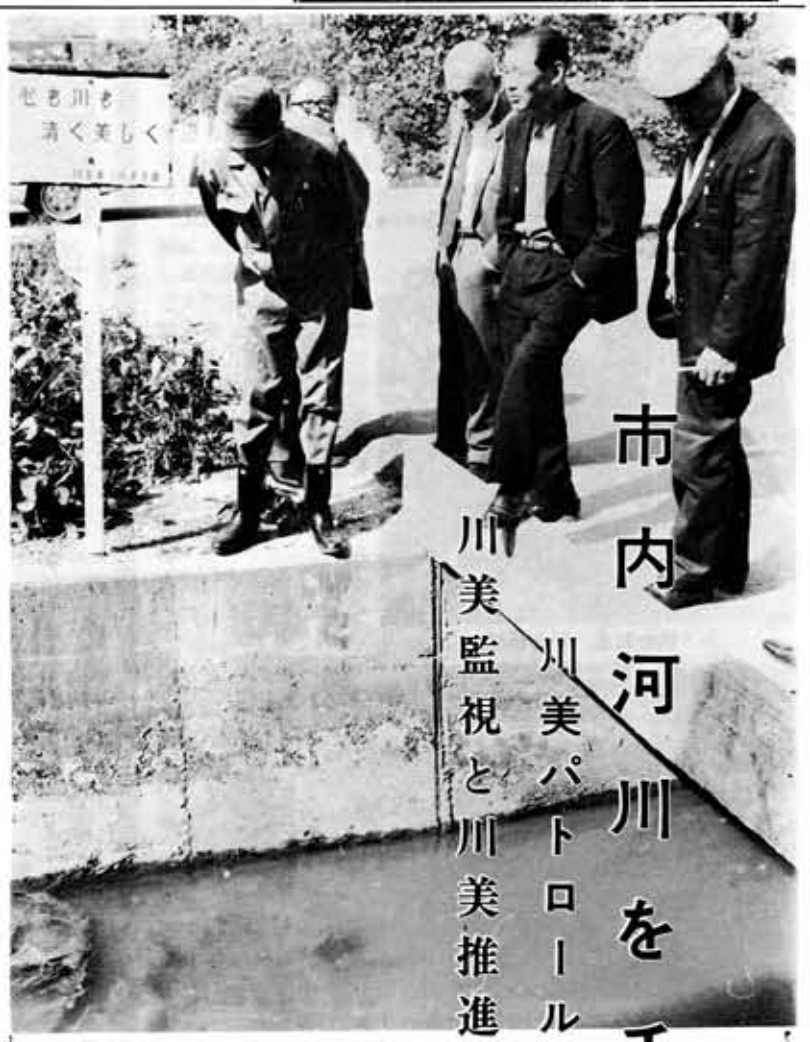
〔教育費〕五億八千七百九十九万円〔民生費〕二億四千七百万円〔衛生費〕二億四千五百九万円〔総務費〕二億三千八百四万円〔土木費〕一億八千六百八十五万円〔公債費〕一億二千六百四万円〔消防費〕六千八百六十二万円〔議会費〕二千六百九十万円〔農林水産業費〕二千二十万円〔商工費〕千四百四十九万円〔諸支出金〕四百八十七万円〔労働費〕四百七十八万円



一般会計　歳入・歳出決算構成比
（グラフ内数字・%）

（第四向陽小学校を建設）

（福祉文化の拠点向日市民会館）


（河川をパトロールをしチェック）

市内河川をチェック

川美パトロールを実施
川美監視と川美推進の両面作戦

"川が美しく守られているか"など，市内を流れている川の総点検をはかる，市の川を美しくする会と市の合同で，10月16日に川美パトロールが実施されました。

午前9時30分，市役所玄関前を自動車6台に，26人が分乗し，また広報車も繰り出して，川美監視と川美推進PRの両面作戦をかねて出発しました。

パトロールは，物集女町――寺戸町――森本町――鶏冠井町――上植野町の経路で，くまなく市内河川をチェックしました。

寺戸町の一部で，汚染された川があり，パトロール員たちは，厳しい目でチェック，どうしてこんなに汚すのだろうと，思っていたよりも汚染がすすんでいるのに顔をくもらせていました。

さっそく，川の汚染がすすんでいるところは，清掃対策を実施し，廃油などが流れているところでは油を流さないように要望するなどの措置をはかりました。

また，川美推進のPRをかねた広報車は，町内の市民や通行く市民に，川を美しくしようを呼びかけました。

"秋の火災予防運動"

11月26日―12月2日

≪隣りにも声かけあってよい防火≫

◉家庭における安全点検を行ないましょう
- 老人，病人，幼児などの就寝場所の再点検
- たばこの投げすてと寝たばこの防止
- 暖房器具の再点検と正しい使い方
- 消火器の備えつけ

◉家族全員で防火について話しあいましょう。